

U.S. Indicators

マクロ経済指標レポート

米国 貿易赤字は高水準ながら前月から縮小 (05年11月貿易統計)

発表日: 06年1月12日(木)

～ 民間航空機輸出が増加するなか、石油製品、天然ガス、燃料油等の輸入が減少～ (No. UI - 176)

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

(03-5221-5001 : seiji@d1ri.dai-ichi-life.co.jp)

貿易収支 (U.S. International Trade in Goods and Services)

	貿易収支			輸出		輸入			
	Balance	財 Goods	サービス Services	Exports	財 Goods	Imports	財 Goods		
04/11	589.78	632.32	+42.54	+0.1	(+8.7)	0.9	+2.3	(+20.9)	+2.4
04/12	546.72	595.14	+48.42	+3.1	(+12.3)	+3.5	0.8	(+16.4)	1.0
05/01	585.76	626.97	+41.21	+0.5	(+14.2)	+0.8	+2.8	(+18.6)	+2.9
05/02	604.22	647.39	+43.17	0.8	(+9.8)	1.2	+0.6	(+17.1)	+0.9
05/03	540.55	588.94	+48.39	+1.4	(+8.0)	+1.1	3.1	(+10.4)	3.7
05/04	579.11	623.16	+44.05	+2.8	(+11.9)	+4.2	+4.3	(+14.5)	+4.9
05/05	562.64	607.82	+45.18	0.0	(+9.6)	0.1	1.0	(+11.6)	1.2
05/06	594.24	638.31	+44.07	+0.1	(+12.3)	+0.1	+2.0	(+10.8)	+2.3
05/07	578.16	625.40	+47.24	+0.8	(+10.9)	+0.7	0.5	(+11.5)	0.5
05/08	589.84	640.62	+50.78	+1.6	(+12.2)	+2.2	+1.7	(+11.0)	+2.3
05/09	659.95	713.23	+53.28	2.4	(+8.3)	4.2	+2.7	(+14.8)	+2.9
05/10	681.27	731.56	+50.29	+1.5	(+9.0)	+2.4	+2.2	(+13.9)	+2.5
05/11	642.07	688.78	+46.71	+1.8	(+10.8)	+2.9	1.1	(+10.1)	1.4

(注1) 季節調整値。貿易収支の単位は億ドル。

(注2) 輸出入の数字は前月比。カッコ内は前年同月比。

	輸出					輸入				
	産業資材 *1	資本財 *2	自動車 *3	消費財 *4		産業資材	資本財	自動車	消費財	
05/04	+4.2	+4.6	+5.5	+2.2	1.4	+5.0	+4.6	+7.8	+1.8	+5.1
05/05	+0.0	+1.4	2.9	1.9	+4.7	1.2	5.6	1.9	+4.9	+1.0
05/06	+0.1	0.9	+1.9	+1.2	2.2	+2.3	+5.3	+4.1	0.6	+0.2
05/07	+0.4	+1.5	+0.5	+2.0	+0.5	0.5	+1.4	2.4	+0.4	1.9
05/08	+2.6	+1.1	+3.8	+4.3	0.3	+2.2	+4.9	+0.4	+6.0	0.6
05/09	4.3	5.8	7.4	0.3	+4.1	+2.9	+6.6	+1.1	3.6	+2.7
05/10	+2.1	+0.3	+6.2	+2.0	5.6	+2.5	+6.3	0.5	+3.8	+0.9
05/11	+2.9	+2.1	+3.7	+2.0	+6.2	1.4	2.5	0.1	+0.5	3.1

(注) 季調済前月比伸び率。

*1: Industrial supplies and materials

*2: Capital goods, except automobiles

*3: Automobiles vehicles, parts and engines

*4: Consumer goods, except automobiles

	輸出						輸入					
	カナダ	中南米	EU	太平洋工業国	日本		カナダ	中南米	EU	太平洋工業国	日本	
05/03	+7.4	+9.5	+5.5	+4.4	0.3	2.9	+9.6	+6.4	+13.3	+2.1	+8.8	+8.6
05/04	+12.6	+12.5	+11.9	+11.0	+6.9	4.2	+13.8	+9.0	+20.4	+5.4	+10.5	+4.6
05/05	+9.4	+12.2	+12.8	+8.6	0.6	4.9	+14.6	+8.5	+16.0	+14.1	+13.4	+8.9
05/06	+13.4	+13.4	+14.1	+12.8	+8.7	+5.2	+11.1	+3.3	+14.1	+9.6	+11.7	+8.6
05/07	+9.6	+5.3	+10.9	+9.7	+7.9	+3.6	+10.5	+4.2	+11.8	+8.2	+9.1	+2.9
05/08	+14.4	+13.9	+14.8	+6.6	+14.8	+15.7	+14.9	+13.1	+15.9	+12.7	+12.6	+8.5
05/09	+6.8	+10.5	+10.5	+3.5	+2.8	0.1	+15.9	+18.8	+14.5	+13.6	+10.6	+3.3
05/10	+7.9	+10.2	+7.6	+4.0	+8.7	4.6	+15.4	+20.1	+12.2	+14.5	+12.7	+6.9
05/11	+13.3	+11.3	+12.8	+11.8	+12.5	+8.9	+10.8	+14.1	+13.7	+9.0	+7.2	+2.4

(注1) 未季調前年比伸び率。

(注2) 中南米はメキシコを含む(原統計の「中南米」は含まない)。

642.07 億ドルと 市場予想を下回った

05年11月の米国の貿易収支(サービスを含む国際収支ベース、季節調整済)は、642.07億ドルの赤字(前月比 5.8%)と、市場コンセンサスの 661億ドルを下回った。サービス収支の黒字額が減少したものの、財収支の赤字額が大幅に縮小した。輸出は、消費財、産業資材、自動車を除く資本財、自動車の増加により前月比 +1.8%と拡大した。特に、民間航空機の高い伸びが続いた。一方、輸入は自動車が増

加したものの、自動車を除く資本財、産業資材、消費財が減少したことから同1.1%となった。なお、原油は価格が1バレル=52.16と低下したが、輸入量が3億1436.1万バレルに増加したため前月比+9.2%となった。

今後も、貿易赤字は高水準で推移する見込み

11月は輸出が民間航空機等の増加によって加速した一方、輸入が石油製品、天然ガス、燃料油、液化石油ガスなどの縮小により減少したため、赤字額は前月から減少した。足下で、ドル安が進んでいるが、原油価格が高止まりしていること、内需の好調から原油以外の輸入も高い伸びが見込まれることから、当面貿易赤字は高水準で推移すると予想される。

貿易赤字を大幅に縮小させるためには、輸入が減少するか、輸出が大幅に増加する必要がある。しかし、輸入を減少させるには、国内の消費を抑制しなければならず雇用の拡大ペースが鈍化、或いは減少し、景気後退に陥るリスクがある。このため、輸入が増加するなかで輸出が大幅に拡大する必要がある。この方法としては、

貿易相手国の輸入障壁の撤廃、輸出先の米国を上回る高い成長(米国輸入の所得弾性値が貿易相手国よりも高く上昇トレンドにあるため)、ドル実効レートの減価、が挙げられる。 、 については、貿易相手国の輸入障壁は簡単にはなくならず、また貿易相手国の金融財政政策が米国ほどの柔軟性に欠けるため米国以上の高い成長も期待できない。現状の貿易・経済構造では米国の貿易赤字の大幅な削減は難しいと考えられる。一方、ドルの実効レートは、景況感・金利格差の拡大に歯止めがかかるとの見方から再び下落している(なお、2005年7月21日の通貨元の管理相場制への以降後も緩やかな元高にとどまっているため、対中貿易不均衡の解消にほとんど貢献していない)。

ドルの弱含みが持続する可能性

米雇用創出法による米国への資金還流の終了、米国の早期利上げ打ち止め期待の高まりを背景にドルが主要国通貨に対して下落している。実際には、米国での利上げは後数回続くため金利差が拡大すること、当面大きな金利格差が残ることから、この面からのドル売り圧力は緩和されよう。しかし一方で、原油価格の高止まりや成長率格差によって米貿易赤字が高水準で推移すると予想されるため、経常赤字が大幅に縮小する可能性が低い。このような中、今年は中間選挙の年であり巨額の経常赤字が材料視され易いこと、さらに中間選挙に絡み元切り上げ圧力が強まることから、円には上昇圧力が掛かり易い。日本経済の回復感が一段と強まるなか、量的緩和策の解除が視野に入ってくることから、今後ドルの上値は限定的となり円が買われ易い状況が予想される。

N I E S 以外の全地域に対する赤字額が縮小

地域別の収支では、対中国が 185億ドル(前年比+10.6%)と前月から赤字額が縮小したが、23ヵ月連続で地域別で最大の赤字国となった(貿易赤字全体の26.3%に縮小)。対欧州は 112億ドル(同+5.1%)と高水準の赤字を維持しており、外需頼みの欧州景気を下支えしている。さらに、対N A F T Aが 121億ドル(同+19.6%)とエネルギー関連、消費財等の輸入増加によって高水準の赤字が持続した。また、対O P E Cが 78億ドル(同+11.4%)と原油価格の下落を映じて小幅縮小した。対日は 73億ドル(同 1.4%)と小幅縮小した。一方、対N I E Sは 25億

ドル(同 20.5%)と赤字額が拡大した。

**輸出は民間航空機主導
で前月比+2.9%と加速**

通関ベースでは、輸出は産業資材、消費財、自動車、自動車を除く資本財が増加したため前月比+2.9%と加速した。一方、輸入は自動車が増加したが、自動車を除く資本財、産業資材、消費財の減少によって同 1.4%と減少に転じた。

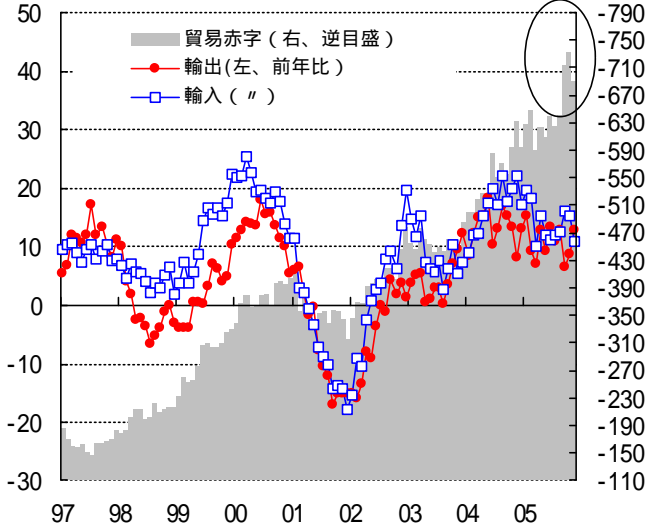
輸出の商品別内訳では、資本財は、コンピューター、通信機器が減少したものの、民間航空機の高い伸び、原材料、鉄道輸送設備、掘削機、金属工作機械等の増加により前月比+3.7%と2ヵ月連続で増加した。消費財は、アンティーク・骨董品・切手、調合薬等の増加によって同+6.2%と増加に転じた。産業資材は、天然ガスが減少した一方、化学製品、鉄鋼、石油製品、原油等の等の増加によって同+2.1%と加速した。自動車は同+2.0%と2ヵ月連続増となった。

**石油製品、天然ガス、
燃料油、液化石油ガスの縮小により
輸入は前月比 1.4%
と減少に転じた**

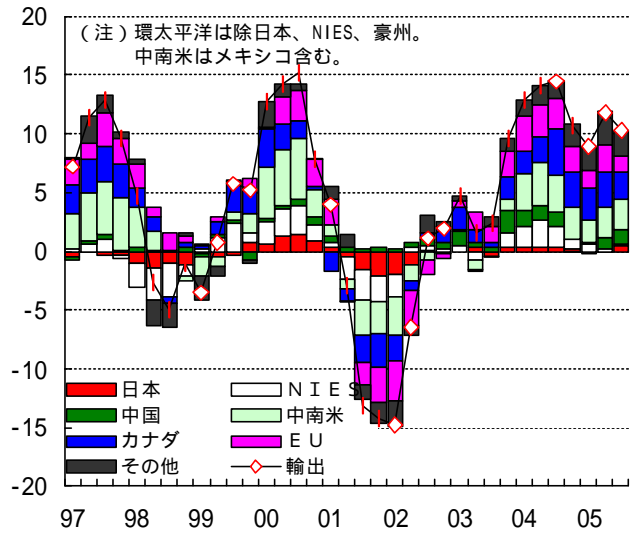
輸入の商品別内訳では、自動車は前月比+0.5%と2ヵ月連続で増加した。一方、産業資材は、原油、核燃料、プラスチック原材料が増加したものの、石油製品、天然ガス、燃料油、液化石油ガス、化学製品等の減少により同 2.5%と6ヵ月ぶりの減少となった。消費財はダイヤモンド原石、アンティーク・骨董品・切手、アパレル・繊維関連が増加したが、調合薬、テレビ・ビデオ、玩具・ゲーム・スポーツ用品、その他家庭用品、靴が減少したため同 3.1%と3ヵ月ぶりの減少となった。

自動車を除く資本財輸入は、コンピューター、民間航空機部品、素材加工機械、金属加工機械が増加したものの、民間航空機、民間航空機エンジン、農業機械、医療機器の減少により同 0.1%と2ヵ月連続で縮小した。

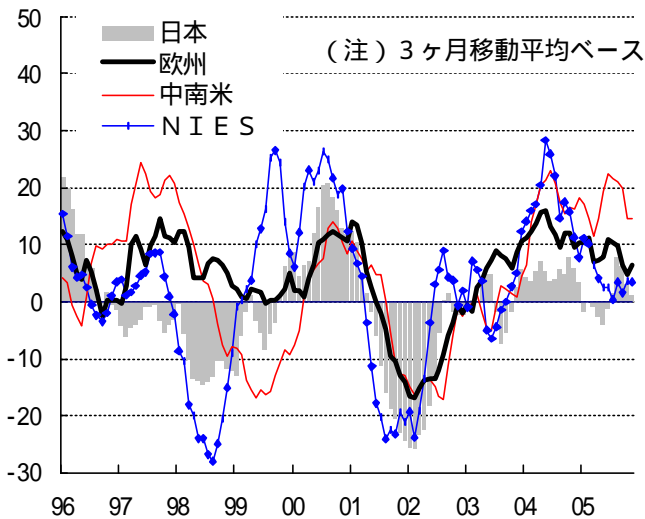
(%) 米国貿易動向 (財、BOPベース億ドル)



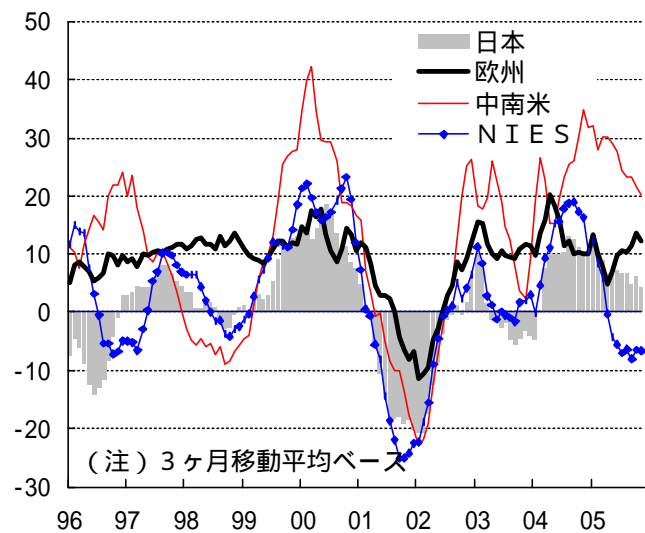
(%) 通関輸出地域別寄与度 (前年比) の推移



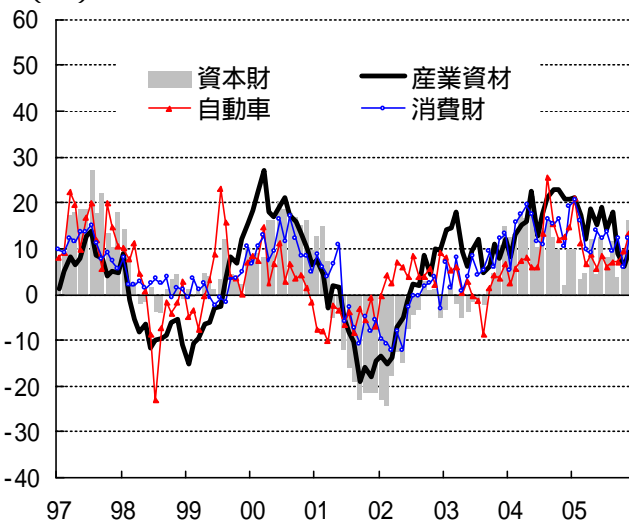
(%) 地域別輸出 (前年比)



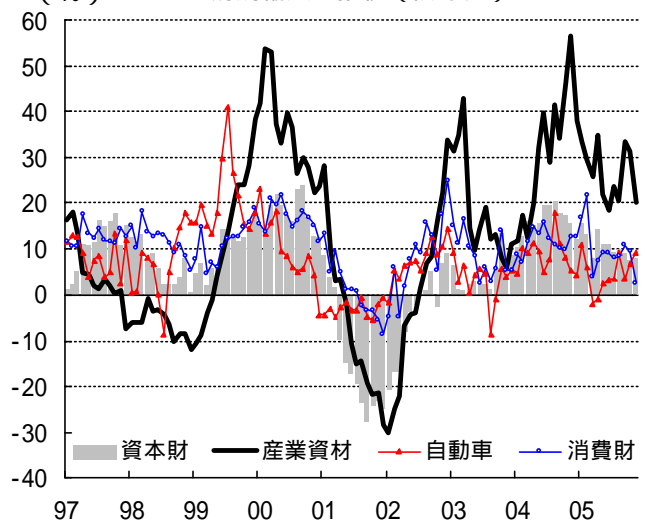
(%) 地域別輸入 (前年比)



(%) 財別輸出の推移 (前年比)



(%) 財別輸入の推移 (前年比)



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。